

- 南空知圏域では、公立・公的医療機関で施設の老朽化等が進み、建替えに向けた検討が進められている状況にあり、地域の議論を促進する必要があったことから、令和2年2月10日開催の調整会議において道から「論点提起」。
- 岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院を対象病院として、国に「重点支援区域」の申請をすることを調整会議で合意。（R2.8.25__重点支援区域に選定）
- 令和3年7月 両病院の統合に係る基本合意を締結
- 令和4年4月 新病院の建設地を北海道中央労災病院敷地とすることを表明
- 令和4年10月 新病院建設基本計画策定（令和10年春開院を目指す）
- 令和5年12月 基本設計（案）公表（病床数462（一般388、精神70、感染症4））
- 令和6年4月 実施設計段階で施設の適正規模等を検証する旨説明。早期経営統合検討開始。



岩見沢市立総合病院

一般病床 365床
 ・急性期 365床
 （精神115床 感染症4床）

地域センター病院
 救急告示病院
 災害拠点病院
 周産期母子医療センター

急性期機能の
 維持・強化に
 に向けた再編統合



(独)労働者健康安全機構
 北海道中央労災病院

一般病床 199床
 ・急性期 164床
 ・回復期 35床

地域がん診療病院
 救急告示病院

道からの論点提起

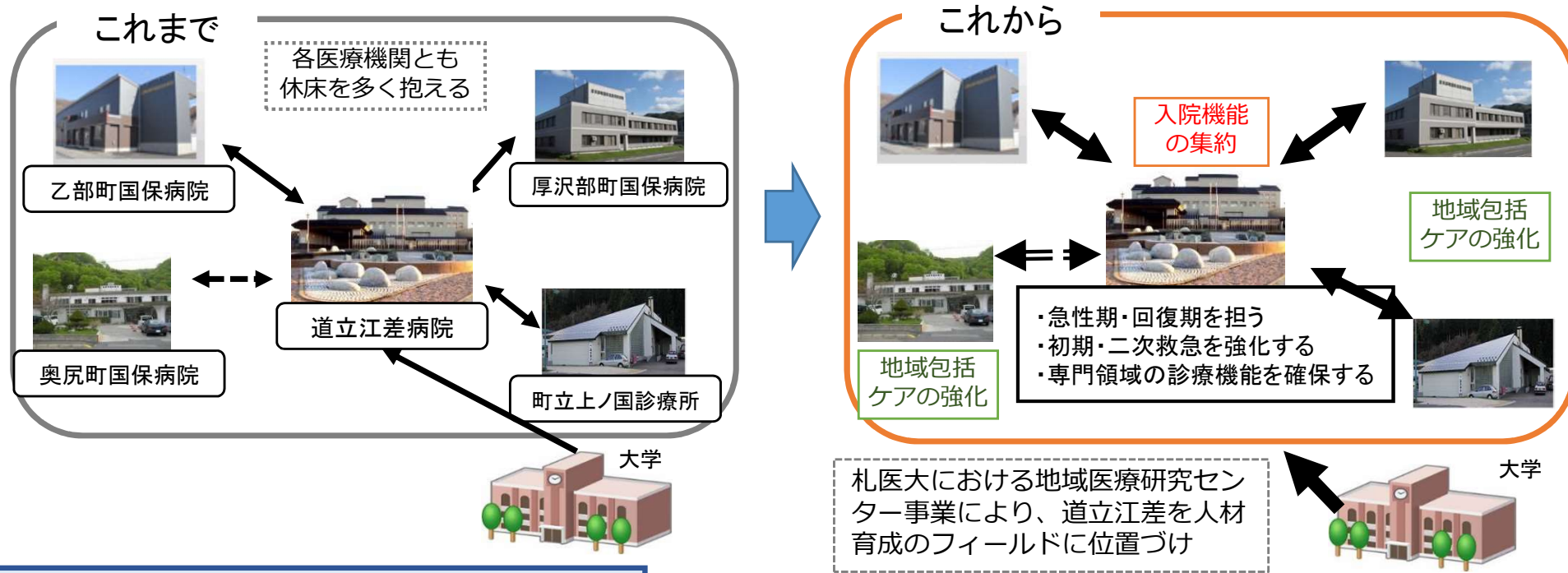
- 岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院では、人口減少下における急性期機能の維持・強化を図るため、機能集約化など再編統合に向けた議論を進めていただきたい。
- その他の病院では、岩見沢市内の議論の状況も踏まえながら、各病院においてどのような機能・規模が必要か、検討を進めていただきたい。

主な公立・公的病院の築年数

- ・岩見沢市立総合病院（築40年）
- ・北海道中央労災病院（築69年）
- ・市立美唄病院（築58年）
- ・市立三笠総合病院（築60年）
- ・栗山赤十字病院（築45年）
- ・北海道せき損センター（築69年）

【R6年度時点】

問題意識：「今ここで、関係者が力を合わせ、将来を見据えた医療提供体制を作り上げていかなければ、人口減少が急速に進む南檜山の医療は守れない」



地域医療連携推進法人の概要等

- 名称：地域医療連携推進法人「南檜山メディカルネットワーク」
- 参加団体：北海道、江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町、医療法人道南勤労者医療協会、医療法人雄心会
- 区域：南檜山区域
- 具体的な取組：医療機能の分担・業務連携、患者紹介・逆紹介の円滑化、医療従事者の相互交流・派遣応援、高額医療機器の共同利用、薬品・医療材料等の共同価格交渉、介護事業等の連携を推進するための事業
- 法人設立：令和2年9月1日
- 令和2年8月25日、国の重点支援区域に選定
- 病床機能については、令和5年度に法人内に病床機能検討委員会を新たに設置し、検討を進めているところ

- 令和2年3月16日 名寄市病院事業と士別市病院事業が「地域医療連携推進法人」を設立する旨を公表し、令和2年9月1日に設立。令和6年2月に名寄東病院が新たに加入。
- 名寄市立総合病院に急性期医療を集約し、士別市立病院は回復期・慢性期の患者を、名寄東病院は地域で不足する外来診療や急性期の補完機能を担う機能分担により、効率的な医療提供体制を目指す。



名寄市立総合病院

一般病床 300床
 ・高度・急性期 252床
 ・回復期 48床（地域包括ケア）
 ・休床 8床
 （精神55床 感染症4床）

（地方・地域センター病院
 救命救急センター
 災害拠点病院
 周産期母子医療センター）

2病院による
 意見交換を
 重ねる

地域医療連携
 推進法人
 を設立する
 旨表明



士別市立病院

一般病床 138床
 ・急性期 55床
 ・回復期 53床
 ・慢性期 30床
 （うち地域包括ケア病床27床）

（救急告示病院
 在宅療養支援病院）

地域医療連携推進法人の概要

- 名称 : 地域医療連携推進法人「上川北部医療連携推進機構」
- 参加団体 : 名寄市（名寄市立総合病院、名寄東病院）、士別市（士別市立病院） ※今後拡大を検討
- 区域 : 上川北部圏域 ※今後拡大を検討
- 具体的な取組 : ①診療機能等の集約化・分担・強化、病床規模の適正化
 ②医療機器の共同利用
 ③医薬材料・薬品等の共同交渉・共同購入
 ④委託業務共同交渉
 (推進方針) ⑤連携業務の効率化（電子カルテ、その他システム等の将来的な連動）
 ⑥医療介護従事者の派遣体制の整備、人材育成、人事交流
 ⑦入院患者の在宅療養生活への円滑な移行の推進、病院間の連携強化
 ⑧働き方改革への対応

- 圏域内の人口減少、高齢化が進行する中、後継者不足による閉院や医療従事者不足による病床の減少が続いているなど、医療機能の低下が圏域の課題となっていた。
- 限られた医療資源を効率的に活用し、医療機能の分担及び業務連携を強化・推進し、新たな医療連携体制を構築していく必要。
- 令和5年9月 地域医療連携推進法人オホーツク西紋医療ケアネットワーク設立



地域医療連携推進法人の概要

- 名称：地域医療連携推進法人「オホーツク西紋医療ケアネットワーク」
- 参加団体：広域紋別病院企業団（広域紋別病院）、紋別市（紋別市休日夜間急病センター、市立上渚滑診療所）、興部町（興部町国民健康保険病院）、雄武町（雄武町国民健康保険病院）、滝上町（滝上町国民健康保険診療所）、西興部村（西興部厚生診療所）、医療法人みなとクリニック（紋別市）、医療法人社団雄山会山口クリニック（雄武町）、個人社員（大原医院、小林整形外科クリニック、武田医院）
- 区域：遠紋区域
- R6主な事業計画：法人関連施設職員の院内研修会への参加、介護事業者と情報共有可能な仕組みの検討
医薬品・診療材料・医療機器についての共同交渉の検討
遠隔医療や医療情報共有システムなどICTの利活用の推進（患者ID共通化の検討）

< 理 念 >

人口減少と高齢化が急速に進行する中においても、富良野圏域における医療機関の開設者や介護事業を行う者が一体となり、限られた医療資源を効果的かつ効率的に活用しながら、相互間の機能分担及び業務連携を進め、住民が将来にわたり住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスを受け続けられる体制の構築を目指す。

地域医療連携推進法人
「ふらのメディカルアライアンス」
※（令和6年3月1日設立）

社会福祉法人北海道社会事業協会 富良野病院

病床数 251床
 ・急性期145床
 ・回復期 50床
 ・慢性期 56床
 ※病床数：R4病床機能報告（感染症病床を除く）

（ 地域センター病院・へき地拠点病院
 地域周産期母子医療センター
 災害拠点病院・救急指定病院 ）



在宅医療

老健ふらの訪問看護ステーション

外来医療

富良野市立山部診療所

なかふらのクリニック

介護サービス

特別養護老人ホームこぶし苑

介護老人保健施設ふらの

地域医療連携推進法人の概要等

- 参加団体 : 社会福祉法人北海道社会事業協会（富良野病院、介護老人保健施設ふらの、老健ふらの訪問看護ステーション）、富良野市（富良野市立山部診療所）、中富良野町（なかふらのクリニック、特別養護老人ホームこぶし苑）
- 区 域 : 富良野区域
- 取 組 : 医療機能の分担・業務連携、医療従事者等のスキルアップに関する共同研修、医師等医療従事者の相互交流システムの構築、富良野協会病院の医療機器の共同利用、医薬品・医薬材料等の共同購入、その他の地域医療連携推進のための業務、高齢化に対応した入退院調整、急変時の対応のための病院等と介護サービス事業者との連携強化、医療従事者の確保及び定着の支援
- 具体的な成果 : 共同研修の実施、看護師の派遣（なかふらのクリニック→富良野協会病院）、患者情報共有に向けた説明会の開催
- 今後について : 更なる事業展開のため、参加機関の拡大や地域の機運醸成を進める